

## デジタルデザインにおける 咬合面形態の考え方



長谷川 篤史

---

Chat GPT や Z 世代などデジタル化に付随した単語が一般的になっているが、歯科界においてもデジタルライゼーションが拡散している現状がある。しかし、補綴装置の製作における目標はアナログやデジタルに関係なく、口腔内への調和・既存の機能を阻害せず生体に組み込まれることである。そのためには下顎運動ならびに歯の解剖学形態を理解する必要があると考える。その上で、オクルージョンというきわめて多様性の高い分野での知識や技術を習得する必要がある。しかし、習得するプロセスもこれまでとは異なり、バーチャル咬合器などのようにデジタル化され、咬合面形態の可視化などへ移行していくものと思われ、同時に若い層で形成される、いわゆる Z 世代の歯科技工士像は、これまでとは大きく異なったものとなることが予想される。

今回オクルージョンという分野について、デジタル・アナログを併用し説明することで、明日からの補綴装置製作に役に立てれば幸いである。

---

### 【略歴】

ORGAN DENTAL LAB 代表

1996 年 共生会歯科技工専門学校 卒業

1998 年 神奈川歯科大学附属歯科技工士専門学校専攻科 卒業

1998 年 (有) 榊原デンタルラボ 入社

2008 年 Organ Dental Lab 開業

2012 年 Diter Schulz 氏に師事